

第53回宇宙政策委員会議事録

1. 日時：平成28年9月29日（木） 15：00－15：45

2. 場所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

葛西委員長、松井委員長代理、遠藤委員、山川委員、山崎委員

(2) 政府側

宇宙開発戦略推進事務局高田事務局長、佐伯審議官、行松参事官、高見参事官、松井参事官、守山参事官

(3) 関係省庁等

内閣官房総合海洋政策本部事務局 甲斐正彰事務局長、木下秀樹参事官

4. 議事次第：

(1) 平成29年度概算要求における宇宙関係予算について

(2) 我が国の海洋状況把握の能力強化に向けた取組について

(3) その他

- ・宇宙基本計画工程表(平成28年度改訂)に対する意見募集の結果について(報告)
- ・日トルコ宇宙協力について(報告)
- ・宇宙産業振興小委の議論の状況について(報告)

5. 議事：

(1) 平成29年度概算要求における宇宙関係予算について

宇宙開発戦略推進事務局より説明を行った。その後、委員間で議論が行われた。主な意見等以下の通り。(以下、○意見・質問等)

○基本的に基本計画工程表実現のために、それぞれ必須の予算だと思う。各省においては是非とも満額を確保するつもりで要求を進めて頂きたい(山川委員)

(2) 我が国の海洋状況把握の能力強化に向けた取り組みについて

内閣官房総合海洋施策本部事務局から説明を行った。その後、委員間で議論が行われた。主な意見等以下の通り。(以下、○意見・質問等、●回答)

○米国等との連携協力は具体的に始まっているのか。例えばインターフェースのデー

タフォーマットの共通化とかいろいろあると思うが。（山川委員）

●このシステムは、まず民生用、行政用のシステムをつくるもの。ご指摘は海洋安全保障にかかわる機密性の高いところの話と理解する。民生用の情報交換というものもあるかもしれないが、まだそこまでは行っていない。（総合海洋政策本部）

○アメリカが要請しているMDA対応したものつくるのか。（葛西委員長）

●今は発展段階の最初の段階だと考えて頂きたい。機密性の高い秘匿情報を扱うMDAはこれから検討する。最終的にはその形も目指しているが、まずは各省の情報を集めて一元化するというもの。海洋本部が、協力を得ながら、システム設計をしていく段階と理解頂きたい。（総合海洋政策本部）

○根本がきちんとすれば道が開けるものだが、末端の方からのアプローチの仕方で大丈夫か。（葛西委員長）

●我々が機密性の情報を取り扱える部局ではないということもあるが、今後は安全保障局の方で主導いただいて、ご指摘のような情報を提供するシステムをつくられることを期待する。（総合海洋政策本部）

●まずは時間も貴重なので各役所が持っているデータを合わせていくことから始めるもの。安全保障にかかわるステージをどういうふうに構築していくかということは関係省庁で引き続き検討し、インテリジェンス情報を加味したものを構築していく必要がある。（高田宇宙開発戦略推進事務局長）

●今回の本部決定のもう一の意味は、政府全体が使うシステムを保安庁が要求するにあたり、関係大臣が全部集まって決めたということ。（総合海洋政策本部）

○日本の今の状況を考えると尖閣が思い浮かぶが、ここには尖閣情報というのは上がってこないのか。（松井委員長代理）

●まだ特定の海域を想定してつくるというのではなく、各府省が持っているデータを総合的にまとめるというもの。この役割分担をしたということが今回の検討の位置づけである。（総合海洋政策本部）

○今、日本にとって尖閣周辺に中国の船がどういう状況かというのが大きな関心事だ

と思う、やるならそういうところも入れるほうが現実的と思う。（松井委員長代理）

○29年度に整備着手とのことだが、情報提供側とユーザー側とでかなりインターフェースが広がるので、一度で完璧なものを作るのではなく、適宜それぞれの側の意見を反映しつつ、ブラッシュアップしていくような形で進めるのがよい。（山崎委員）

○先日ワシントンD.Cでいろいろな方と意見交換したが、日米の宇宙安全保障の観点の1つとしてもMDAも意識されていた。是非積極的に進めて頂きたい。MDAに関しては、3～4年ぐらい前から議論をしているが、海上保安庁が明記されたことは大きな進歩だと認識している。安全保障という観点では、防衛省なり海上自衛隊がどのようにかわっていくのかということをも早く収斂して欲しい。（山川委員）

○MDAはアメリカと協力するという文脈の中で非常に重要な課題となっている。（葛西委員長）

●防衛が全てではなく、日本版のMDAといものを検討した次第。海上安全保障MDAというものは別途検討する。ただ、今回各省が持っているものを集められて、保安庁が政府全体のシステムを持って、防災とか自然災害とかにも使うので、その点で意義があると思う。（総合海洋政策本部）

○安全保障上のMDAを別につくるということか。（山崎委員）

○1つにまとめるかどうかは別の話。海上安全保障に係わる非常に秘匿情報について、どういうやり方でレベルを上げていってつくるといった検討は別にやる。（総合海洋政策本部）

○その検討は政策本部でやるのか。（松井委員長代理）

○それは国家安全保障局が主導してやることになる。（総合海洋政策本部）

（3）その他

報告案件について事務局より説明の後、委員間で意見交換があった。主なものは以下のとおり。（以下、○意見・質問等、●回答）

○トルコでは首相も運輸海事通信大臣も、人材育成に力点が置いているのが、具体的な要望のような話はあったのか。（山川委員）

●衛星打ち上げ能力に関する人材育成と受け止めている。基礎的なカリキュラムについてJAXAが普通に協力できるようなものをベースにしながらと考えている。（高田宇宙開発戦略推進事務局長）

○いい話だと思うが、同時に慎重にすべきだと思う。（山川委員）

●日トルコ協力で進んでいるのはISSでトルコの小型衛星を放出することや「きぼう」で材料試験をすることも進んでおり非常に感謝されている。そういう意味では日本がトルコに協力して動いており、評価されている。（高田宇宙開発戦略推進事務局長）

以上